



育成目標

- ・心も体もたくましい子ども
- ・自ら考え主体的に行動する子ども
- ・自分や人を大切にし、人とのかかわりを楽しむ子ども
- ・豊かに感じることでできる心もち、自ら創りだしたり、表現したりする子ども

ていねいな保育

脳がめざましく発達する0・1・2歳児。保育園は、その大事な時期に1日のほとんどを過ごす場所です。「ただ世話をされるだけでは、子どもは健全に育たない」。これは、保育施設の調査などからも明らかにされた事実です。つまり、子どもの成長には、「一人ひとりの気持ちを満たす、ていねいな関わりが欠かせない」と言えます。

ていねいな保育は、『関わってくれる大人とのアタッチメントや基本的信頼感』を子どもの中に育てます。そしてそれを土台にして子どもの「自己肯定感」が高まっていきます。自己肯定感とは、自分への信頼感。これがあると、「いいなあ」「したいなあ」「やってみよう」「やりつづけよう」という、心情・意欲・態度が表れてきます。この心情・意欲・態度はこれから一生、自分が人生の主人公として生きるための原動力で、これによりすべての資質・能力が高まっていきます。

0・1・2歳児が、一生のうちで一番ていねいな養護と教育的関りを必要としている時期だということを常に考え、子ども達と笑顔で、毎日ていねいに関わっていくことが私たちの使命として、保育にあたっています。

散歩から戻った1歳児



脱いだ靴を自分で靴箱へ入れています



靴下も自分で脱ごうと頑張っています